



江戸時代の町を 彩る桜並木

いづもかいどうしんじょうしゅく

出雲街道新庄宿

平成15年度認定 / 岡山県真庭郡新庄村 / メルヘンの里さくらまつり実行委員会

江戸から平成へ。町並みを大切に守って暮らす人々。

「新庄宿」は江戸時代の宿場町です。出雲街道の難所と言われた「四十曲峠」のふもとにあり、参勤交代や出雲大社詣での旅人で賑わいました。

間口が広く、軒の深い家が約400メートルの通りに沿って並び、「かじや」「たたみや」「よこや」といった屋号を記した木札が掛けられています。ひときわ目をひく「木代邸」

は参勤交代のお伴が泊まった脇本陣です。白壁の重厚な造りの中に繊細な出格子が美しい調和を見せる建物はまるで時代劇のワンシーンを見るようです。ここには映画のセットとは違い、今も大切に手を入れながら住み継がれてきた家々があり、人々の暮らしの風景が温もりを添えています。雑貨屋の店先などに懐かしさを感じる人も多いこ

「日本の音風景百選」に。
水路のせせらぎは



水路脇に祭られる、えびす様



脇本陣だった木代邸



重厚な造りの三間続きの部屋

とでしょう。

通りには明治39年日露戦争戦勝記念に植えられた桜並木「かいせん桜」があり、春になると町が桜色に染まります。100年を超す長寿の桜ですが、樹木医によって治療が行われ、地域の人々に大切にされて毎年美しい花を咲かせます。「出雲街道新庄宿町づくりの会」では「さくら募金」と名付けた募金活動を続け、多くの人々による浄財は桜の延命治療に役立っているそうです。

立ち止まると、水の流れる音が聞こえてきます。せせらぎのやさしい水音は静かな町だからこそ。家々の前を流れる石組みの

水路は“使い川”といわれ、野菜を洗ったり、洗濯をしたりと生活用水として利用されてきました。今も驚くほどきれな水が音をたてて流れ、「日本の音風景百選」にも選ばれています。

出雲街道は出雲大社、松江から姫路まで全長53里(212キロ)あります。新庄から勝山(夢街道に認定)、津山(夢街道に認定)へと続きます。町外れには、旅人を見守るように6体のお地蔵さんが並んでいます。



街道沿いにある「六体地蔵」



「出雲街道新庄宿町づくりの会」の渡辺算人さん

観光客の皆さんから私たちガイドを育ててくれます。

ガイドをしていると、観光客からいろいろなことを聞かれます。新庄村の財政状況を聞かれた時は驚きました。おかげで、自分の地域の知らなかつたことを勉強でき、ますます地域への関心も高まり、お客様のニーズに合った案内ができるようになりました。女性客が多いので、これからは女性のガイドを増やしたいですね。「さくら募金」に協力してくださる方も増えています。宿泊だけでなく、休憩もできる「農家民宿」も始めました。桜の時期以外の季節にもきていただき、ゆっくりもつと深く新庄を楽しんでください。

境往来 P29



- ①新庄村歴史民族資料館
- ②新庄村役場
- ③レトロ看板
- ④えのき小路
- ⑤脇本陣木代邸・さくら茶屋
- ⑥すぎや
- ⑦出雲少将宿(本陣跡)
- ⑧えびす神社
- ⑨一里松
- ⑩須貝邸

家の前を流れる水路沿いには池が設けられ、鯉が泳いでいます。



水車の回る音もお宝です。

大樽の中に公衆電話があります。

八橋往来 P17 風の家まで約15km

